

# 第5学年算数科学習指導案

日時 平成23年10月13日(木)第5校時  
場所 5年3組教室(南舎3階)  
授業者 T1:成橋 俊次  
T2:加藤 桂子

## 1 単元名 「分数のたし算とひき算」～分数の大きさ～

### 2 指導の立場

#### (1)単元について

本単元の構成における学習指導要領とのかかわりは以下のようにになっている。

##### A 数と計算

(4)分数についての理解を深めるとともに、異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにすること。

ウ 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。

エ 分数の相当及び大小について考え、大小の比べ方をまとめること。

オ 異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

本単元の主たるねらいは、「分数の理解を深めるとともに、分数の相等及び大小の比べ方について理解し、それをもとに異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができるようにする」ことである。

同分母分数の加減の計算は、前学年で学習している。本単元では、分数の理解を一層深めながら、異分母分数の大小比較から加減の計算のしかたへと学習を進めていく。本単元を大小比較から行うにあたって、大小比較をするためには単位をそろえなければならないという考えから同分母分数にすることが必要になる。ただし、通分をまだ学習していない段階では、数直線を縦に見ていくことで、大きさの等しい分数を見つけることになる。そこで、数直線で調べるのではなく、簡単に分母をそろえる方法として大きさの等しい分数のつくり方や約分、通分を学習していく。そうすることで、異分母分数の加減法までの流れに必然性が生まれると考える。

分数の理解を深めるという点において、大小比較の場面では、同分子分数での比べ方についても大切に扱うことで、「分母は、1を何等分するかを示したものだから、多くの数に等分するほど1つ分は小さくなる」という理解を定着させたい。児童はこれまでの学習をもとに考えをもつため、単純に数字の大小で判断する傾向がある。したがって、 $\frac{1}{3}$ と $\frac{1}{5}$ において大きい数を $\frac{1}{5}$ としてしまう児童もいる。そこで、「分子が等しい分数では、分母の数が大きいほど、数は小さくなる」ということの意味を理解してから加減法へと進めるようにしたい。

そして、分子が同じ分数では、大小関係はわかるがどちらがどれだけ多いかということまではわからないという考えやいくつに分けたいくつ分にすれば比べやすいという考えから共通な分母にそろえるということに着目できるようにしたい。

本時は、異分母分数の加法としての最初の場面である。これまでの学習から、分母が等しければ計算できると考え、通分して計算するとよいということに気付かせたい。ただし、通分すればよいといった形式的な方法を理解するだけでなく、「一つ分の大きさのいくつ分」という考えをもとに数直線や面積図で計算方法を説明できるようにしなければならない。その際、通分して計算すると $\frac{3}{6}$ と $\frac{2}{6}$ になり、合わせると $\frac{1}{6}$ の5つ分となるため、二つをたしても1Lに満たないといった量感を大切に、次時に学習する和が1より大きくなる場合のたし算との関連をもたせたい。

また、児童が自分の考えや計算方法を説明する場面では、量感を伴った分数の理解を深められるように「一つ分の大きさのいくつ分」という考えにこだわって進めていくことで、ねらいである分数の理解を深めることや計算方法の習得が実現できるようにする。

## (2) 児童の実態(男子17名 女子17名 合計34名)

ノートの書き方や聞き方話し方などの基本的な学び方を身に付ける児童が徐々に増え、立式の根拠や自分の考えを説明できる力への発展に取り組んでいる過程である。自分の考えを仲間に伝えることを意識しながら、説明文を考えたり、これまで学んだことを仲間に確かめながら話したりする姿も少しずつ見られ、課題解決の見通しをもち、充実した一人学びを行うことで積極的に発言できる児童もいる。そこで、一人学びで自分の考えを深められなかった児童も仲間の意見を聞いたり、教師の発問に答えたりすることで課題解決に迫ることができるようにしたい。

本単元にかかわる既習内容の定着度を知るための調査を行った。すると次の結果が得られた。

- |                              |                                  |
|------------------------------|----------------------------------|
| ・数直線の空所に分数を補充する問題            | 85%                              |
| ・数直線から大きさの等しい分数を見付ける問題       | 85%                              |
| ・同分母分数の大小比較の問題               | 82.4% (例: 3/4 1/4 5/4)           |
| ・同分子分数の大小比較の問題               | 52.6% (例: 5/8 5/3 5/4)           |
| ・同分母分数の加法・減法の問題              | 93.5% (例: 2/4+3/4 8/7-5/7)       |
| ・帯分数が入り、くり上げやくり下げを必要とする加法・減法 | 58% (例: 1 1/6+2 4/6 4 1/5-1 3/5) |

同分子分数の大小比較における正答率が低いことから、分母は1を何等分したかを示したものだから、分子が等しければ分母が大きい方が小さくなるということや分母が大きくなるほど一つ分の大きさが小さくなるということが理解できていない児童が多いと考えられる。

また、この実態から、量感を伴った分数の理解が定着していない児童が多いことが明らかになったため、単元の第1時に分数における既習内容を振り返る時間を位置付けた。また、本単元の中で「一つ分の大きさのいくつ分」という考え方を大切にするこゝで、分数の理解を深められるようにしていきたいと考える。さらに、仲間学びやペア学習などの活動を通して、仲間から学び考えを深められるようにしたい。そのために、T1とT2の連携によって一人学びの時間をより充実したものにできるような支援をしていきたい。

### 3 本時と研究主題とのかかわり

#### <研究主題>

## 子どもの思考力・表現力を高める指導のあり方

#### <研究の重点>

- ① 内容の系統性を明確にした指導計画を作成し論理的に結びつく言語表現にもとづいて、どのような表現をさせればよいかを明らかにするとともに、それを子どもの姿で実現するための指導をすること。
- ② 問題解決に必要な数学的な思考力・表現力を支える基礎的・基本的な知識や技能を確実に身につけさせる指導のあり方を明確にすること。

平成23年度第1回市教研(武内教諭:6年 単元名 分数のわり算)実践と本校の研究をふまえて、本時も以下のように研究主題とのかかわりを考えた。

まず、研究の重点①の内容の系統性を明確にするために、『(1)本単元に関わる既習の単元の流れ』と『(2)本単元にかかわる5年時の既習単元と観点別目標』の2点を単元指導計画に位置づけた。

分数の登場は第2学年である。1/2, 1/4など簡単な分数について指導する。そして、第3学年から、分数の意味や表し方について確実に身に付けられるようにする。また、分数についても、これまでの整数と同様、加法及び減法が考えられることを知り、計算の仕方を考え、計算ができるようにする。(例: 1/5と2/5を合わせると、1/5の三分分に当たる。)さらに、第4学年では、同分母分数の加法及び減法の学習となる。(例: 真分数+真分数... 3/5 + 4/5 仮分数+仮分数... 7/5 + 6/5 結果を帯分数にする 帯分数+帯分数の計算の仕方)

このことから分かるように、本時も算数学習の特徴である既習内容の積み重ねを利用して学習を進めることが問題解決への鍵となる。したがって、単元指導計画に『本単元で使いたい算数用語』を位置づけ、児童が算数用語を用いて学習できるように指導し、既習内容と関連を明確にしたり、端的に説明ができるよさを実感したりできるようにすれば、論理的に考え、表現できる力の育成へとつながると考えた。

また、本時身に付けさせたい学習内容をペアで説明し合う場を展開後段に設定し、相手に話す活動を通して、自らの学びを確認し、筋道立てて話せるようにしていきたいと考えた。ペア問題で一人ずつ異なる問題に取り組み、計算の手順を順序良く話していく。「始めに、一つ分の大きさをそろえるために通分をします。次に、分母がそろったので整数の時のようにたし算をします。そうすると、答えは～になります。」という姿が見られるようにしたい。

次に研究の重点②の問題解決に必要な数学的な思考力・表現力を支える基礎的・基本的な知識や技能として大切にしたいことは、個人追究の場で児童が、言葉、数、式、数直線などを用いて考えを表現する算数的活動である。本時までには、児童は「通分」を学習しているので、言葉や数式を中心に個人追究すると予想される。そこで、教師が数直線や面積図を用意して、「一つ分の大きさをそろえる」ことの量感を視覚的にとらえられるようにしていきたいと考える。

徐々に数の操作だけで計算をしていくようになる高学年であるが、同値の分数やさまざまな分数を量感を伴って理解し、操作できることが分数量学習では大切ではないかと考えるからである。そうすることで、児童が「分数を難しい」と考える要因の一つと考える整数の数の構成の仕方と異なる点（例えば、分母が大きくなるとその分数自体は小さい値になる）や、割合分数（全体を1としてみる見方）と量分数の概念の混在などの解決へとつながるのではないかと考えた。特に、数直線を描く時には必ず最初に0と1の位置を決めることを徹底させたい。そして、「1」や「一つ分の大きさ（単位分数）」をいつも確認し、整数・小数・分数に共通する加法の計算原理につなげていきたい。

さらに確かめの問題に取り組み、同様なことがいえるのかを確かめ、一般化を図り、課題解決のまとめへとつなげ、計算のしかたが理解できるようにする。そして、教科書を活用して、巻末の「計算練習」を練習問題とし、鉛筆問題（課題に対応した適応問題）をやり終えた児童は各自で取り組み答え合わせをしていくようにする。

そして、練習問題の答え合わせを終えた児童は、自作問題に取り組む。和の大きさに注目させ、帯分数にできるものや約分ができるものに気付かせ、次時の学習へとつなげていきたいと考える。

〈研究に関わる本時の重点〉

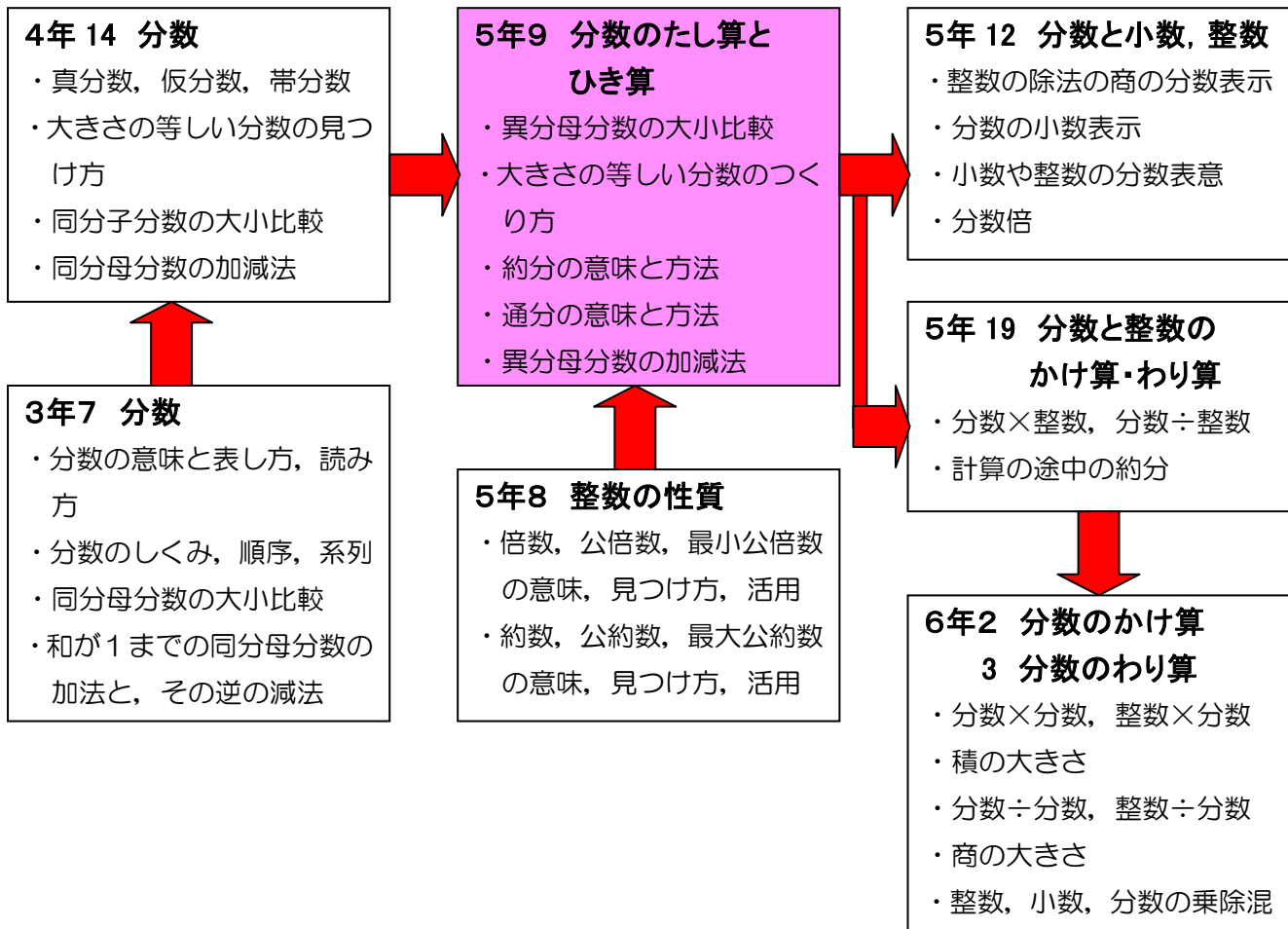
- 「なぜ通分するのか」という発問などにより、異分母分数の加法では、ただ「通分すればよい。」という考えではなく、「通分して分母をそろえると、一つ分の大きさのいくつ分で考えられる。」という既習内容の積み重ねを利用した考え方ができること。
- ペア問題に取り組み、全員に説明する機会を設定することで、一人ひとりの表現力の向上につなげること。
- 言葉や数式による個人追究に加え、教師が数直線や面積図を示すことで量感を伴った分数の理解につなげること。
- 本時の問題の後に確かめ問題で一般化を図り、ペア問題、練習問題など多くの問題に取り組むことで、確実な技能の定着につなげること。

#### 4 単元の目標

- (1) 分数の相等及び大小についての考え方を生かして、異分母分数の加法及び減法の計算のしかたを考えようとする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 異分母分数の加法及び減法の計算について、分数の性質などをもとに考え、図や式を用いて説明することができる。 【数学的な考え方】
- (3) 異分母分数の加法及び減法の計算ができる。 【技能】
- (4) 通分することで分数の相等及び大小を比べることができることを理解する。 【知識・理解】

## 5 単元指導計画

### (1) 本単元にかかわる既習の単元の流れ



### (2) 本単元にかかわる5年時の既習単元と観点別目標

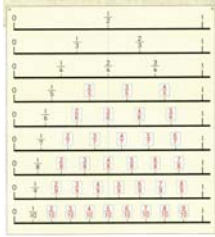
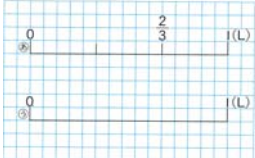
#### 【5年8 整数の性質】

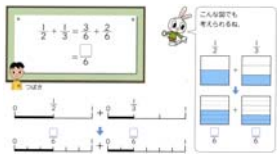
算数への興味・関心	数学的な考え方	技能	知識・理解
・分数にはいろいろな表し方があることや大きさの等しい分数があることに興味をもち、進んで調べようとするができる。	・数直線を活用して、分数の相当関係や大小関係を考えることができる。 ・同分母分数の加法及び減法の計算のしかたを、分数の意味に基づいて考えている。	・大きさの等しい分数を見つれたり、分数の大小比較をしたりできる。 ・帯分数を仮分数になおしたり、仮分数を帯分数になおしたりできる。 ・同分母分数の加法及び減法の計算ができる。	・「真分数」、「仮分数」、「帯分数」の用語とその意味や表し方がわかる。 ・分母や分子が異なっても、大きさの等しい分数があることがわかる。 ・同分子分数や同分母の帯分数と仮分数の大小比較のしかたがわかる。 ・同分母分数の加法及び減法の計算のしかたがわかる。

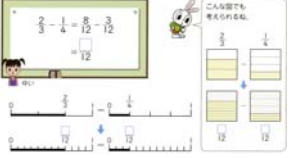
### (3) 本単元で使いたい算数用語

○を△等分した□つ分、一つ分の大きさ、大きさの等しい分数、分数、分母、分子、真分数、仮分数、帯分数、約数、公約数、最大公約数、倍数、公倍数、最小公倍数、テープ図、数直線、面積図、通分、約分、など

(4) 単元指導計画 (全12時間)

時	ねらい	学習活動	評価規準
1	<p>4年生で学習した分数についてふり返り、「一つ分の大きさ(単位分数)のいくつ分」という考えをもとに、大きさの等しい分数の見つけ方や同分母分数・同分子分数の大小比較ができる。</p> 	<p>1 課題の確認をする。</p> <p>「単位分数のいくつ分」をもとに分数の復習をしよう。</p> <p>2 分数の種類(真分数・仮分数・帯分数)を確認し、表し方が異なっても分数の大きさが等しい分数があることを想起する。</p> <p>3 「一つ分の大きさ(単位分数)のいくつ分」をもとに同分母分数や同分子分数の大小比較をする。</p> <p>4 復習したことを整理し、まとめる。</p> <p>分母が等しい時は分子の数が大きいほど数は大きく、分子の数が等しい時は分母の数が小さいほど数が大きい。</p>	<p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <p>4年生で学習した内容を振り返り、学習の見直しをもつことができる。</p>
2	<p>分母も分子も異なる分数の大小比較をするには、同じ大きさの分数を数直線から見付け、共通な分母にすることで比べられることがわかる。</p> 	<p>1 問題を把握する。</p> <p>⑤と③の水とうでは、どちらがどれだけ多く入るでしょう。</p> <p>・2/3と2/5は、分子が同じだから、分母の数が小さい2/3の方が大きい。2/5と3/5では、分母が同じだから、5/3の方が大きい。</p> <p>・2/3と3/5では、分子も分母も違うから比べられない。</p> <p>2 課題の確認をする。</p> <p>分母も分子も異なる分数の大きさは、どうすれば比べられるだろう。</p> <p>3 大きさの等しい分数を数直線から見つけだし、分母が等しい分数の分子で比べる。</p> <p>4 本時学んだことを整理し、まとめる。</p> <p>分母も分子も異なる分数の大きさは、大きさの等しい分数を調べて、分母を同じにすれば比べることができる。</p> <p>5 確かめ問題を行う。</p>	<p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <p>異分母分数の大小比較に関心を持ち、進んで考えようとする。</p>
3	<p>大きさの等しい分数をつくるには、分母と分子に同じ数をかけたり、同じ数でわったりすることが分かり数直線を用いなくて大きさの等しい分数をつくるができる。</p>	<p>1 問題を把握する。</p> <p>2/3, 4/6, 6/9 は大きさの等しい分数です。これらの分数の分母どうし、分子どうしの関係を調べよう。</p> <p>2 課題を確認する。</p> <p>大きさの等しい分数のつくり方を考えよう。</p> <p>3 分母が2倍、3倍…になると分子も2倍、3倍…になる。</p> <p>4 大きさの等しい分数のきまりをまとめる。</p> <p>分数は、分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても大きさは変わらない。</p> <p>5 確かめ問題を行う。</p>	<p>&lt;知識・理解&gt;</p> <p>分数の分母と分子に成り立つ関係を理解する。</p> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>分母と分子に同じ数をかけたり同じ数でわったりすることで大きさの等しい分数をつくることができる。</p>

4	<p>「約分」の意味を知り、分母と分子の最大公約数であるという効率のよい約分のしかたがあることが分かる。</p>	<p>1 問題を把握する。  <math>12/18</math> と大きさの等しい分数をつくらう。</p> <p>2 「約分」という言葉と意味を知る。</p> <p>3 課題を確認する。          分母と分子ができるだけ小さくなる約分のしかたを考えよう。</p> <p>4 約分でわる数は分母や分子の公約数になっているから、できるだけ小さくするには、最大公約数でわるとよい。          分母と分子ができるだけ小さい簡単な分数に約分するには、分母と分子の最大公約数でわる。</p> <p>5 確かめ問題を行う。</p>	<p>&lt;技能&gt;          分数の約分ができる。</p> <p>&lt;知識・理解&gt;          「約分」、「通分」の用語とその意味や方法が分かる。</p>
5	<p>「通分」の意味を知り、分母の最小公倍数を用いることが分かる。</p>	<p>1 大きさの等しい分数のつくり方で問題を解く。  <math>3/5</math> と <math>4/7</math> では、どちらがどれだけ大きいだろう。</p> <p>2 「通分」という言葉と意味を知る。          ・通分した分数の分母は、もとのそれぞれの分母の公倍数だということがわかる。</p> <p>3 課題を確認する。  <math>5/6</math> と <math>3/8</math> の通分のしかたを考えよう。</p> <p>4 通分のしかたをまとめる。          通分をするときは、それぞれの分母の最小公倍数を分母にする。</p> <p>5 3つの分数でもそれぞれの分母の最小公倍数を分母にすればよいことがわかる。</p> <p>6 確かめ問題を行う。</p>	<p>&lt;数学的な考え方&gt;          手際のよい通分のしかたを考えることができる。</p> <p>&lt;技能&gt;          分数の通分ができる。</p>
6	<p>これまでの学習内容を活用し、練習問題を解くことができる。</p>	<p>1 大きさの等しい分数づくり          2 約分          3 通分</p>	<p>&lt;技能&gt;          分数の約分や通分ができる。</p>
7 (本時)	<p>異分母分数の加法において、通分して分母をそろえること「一つ分の大きさ(単位分数)のいくつ分」と考えられるため、整数や小数と同じように分子の数で計算すればよいと考え、正しく計算できる。</p> 	<p>1 問題を把握する。          2つの入れ物に、スポーツドリンクが <math>1/2L</math> と <math>1/3L</math> 入っています。合わせて何Lあるでしょう。          ・ <math>1/2</math> と <math>1/3</math> を合わせるから式は、 <math>1/2+1/3</math> になる。          ・ 分母が違うからこのままでは計算できない。</p> <p>2 課題を確認する。  <math>1/2+1/3</math> の計算のしかたを考えて、説明しよう。</p> <p>3 <math>1/2</math> と <math>1/3</math> を通分して計算する。          ・ <math>1/2+1/3=3/6+2/6=5/6</math></p> <p>4 計算の仕方をまとめる。          分母の異なる分数のたし算は、通分して、単位分数のいくつ分で計算することができる。</p> <p>5 確かめ問題を行う。</p>	<p>&lt;技能&gt;          異分母分数の加法のしかたを考え、説明することができる。異分母分数の加法の計算ができる。</p>
8	<p>異分母分数の加法で、和が約分できたり、1より大きくなった場合の計算ができる。</p>	<p>1 問題を把握する。  <math>5/12+1/3</math> の計算をしよう。</p> <p>2 答えが約分できるときはふつう約分する。  <math>3/4+5/6</math> の計算をしよう。</p> <p>3 答えが仮分数になったときは帯分数に直してもよいことがわかる。</p> <p>4 帯分数同士のたし算は整数部分と分数部分でそれぞれ計算してもよいことがわかる。</p>	<p>&lt;知識・理解&gt;          答えが約分できるときは、ふつう約分することが分かる。</p>

9	<p>分母が異なる分数の減法においても、加法の場合と同じように、通分して分母を等しくすることで計算できることが分かる。</p> 	<p>5 確かめ問題を行う。</p> <p>1 問題を把握する。</p> <p>牛乳が <math>2/3\text{L}</math> あります。ホットケーキをつくるのに、<math>1/4\text{L}</math> 使いました。残りは何 <math>\text{L}</math> あるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>2/3\text{L}</math> から <math>1/4\text{L}</math> をとって、残りを求めるので、式は、<math>2/3 - 1/4</math> になる。</li> <li>• 分母をそろえればたし算のように計算できるかもしれない。</li> </ul> <p>2 課題を確認する。</p> <p><math>2/3 - 1/4</math> の計算のしかたを考えて、説明しよう。</p> <p>3 計算の仕方をまとめる。</p> <p>分母の異なる分数のひき算もたし算と同じように、通分して単位分数のいくつ分で計算することができる。</p> <p>4 確かめ問題を行う。</p>	<p>&lt;技能&gt;</p> <p>異分母分数の減法のしかたを考え、説明することができる。</p>
10	<p>分母が異なる減法の差を約分したり、3口の加減混合計算をしたりすることができる。</p>	<p>1 問題を把握する。</p> <p><math>6/7 - 1/2</math> の計算をしよう。</p> <p>2 差が約分できるときは約分すればよいことを理解する。</p> <p><math>4/6 - 2/3</math> の計算をしよう。</p> <p>3 帯分数同士のひき算は、整数部分と分数部分でそれぞれ計算してもよいことが分かる。</p> <p><math>3/4 - 1/2 + 5/8</math> の計算をしよう。</p> <p>4 異分母分数の加減の混ざった計算でも、通分すれば、分子同士を計算して答えを求められる。</p>	<p>&lt;技能&gt;</p> <p>異分母分数の3口の加減計算ができる。</p>
11	<p>これまでの学習内容を活用し、練習問題を解くことができる。</p>	<p>1 異分母分数の加法、減法、加減混合</p> <p>2 3つの分数の大小比較</p> <p>3 異分母分数の加法、減法の適用</p> <p>基本の確かめ</p>	<p>&lt;技能&gt;</p> <p>分数の加法及び減法ができる。</p>
12	<p>これまでの学習内容を確認し、評価テストを行う。</p>	<p>評価問題に取り組む。</p>	<p>(評価テスト)</p>

**6. 本時のねらい** (7 / 12)

異分母分数の加法において、通分して「一つ分の大きさ」をそろえることで、整数や小数と同じように、その「いくつ分」を求めればよい考え、正しく計算することができる。

**7. 本時の展開**

	児童の学習内容	教師の指導・援助		指導上の留意点 評価規準
		T 1	T 2	



問題づかみ  
課題づかみ  
一人学び  
仲間学び  
まとめ  
練習

1 本時の問題をつかむ。

2つの入れものに、スポーツドリンクが  $1/2L$  と  $1/3L$  入っています。合わせて何 L あるでしょう。

- $1/2L$  と  $1/3L$  を合わせるから、 $1/2L+1/3L$  になる。
- 分母の数が違うから、このままでは計算できない。

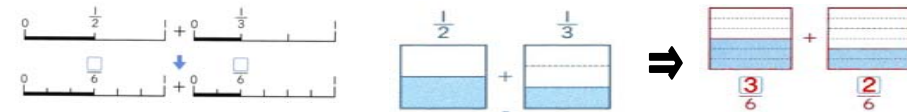
2 本時の課題を確認する。

分母の異なる分数のたし算の計算のしかたを考えて、説明しよう。

3 これまで学習したことをもとに自分の考えをまとめる。

- 分母の数をそろえれば、「一つ分の大きさ（単位分数）のいくつ分」で考えることができる。
- 分母の数をそろえるときは、通分すればよかったから、通分すると、 $1/2=3/6$   $1/3=2/6$  合わせると  $3/6+2/6=5/6$

〈数直線・面積図〉



4 仲間と交流して、考えを深める。

- 通分して分母をそろえれば「一つ分の大きさ（単位分数）いくつ分」で考えられる。 $1/2+1/3=3/6+2/6=5/6$
- $1/6$  の二つ分と  $1/6$  の三つ分を合わせるので、 $5/6$  になる。
- 通分して計算すると、 $1/6$  の五つ分で  $5/6$  だから、二つの量を合わせても、1 L より少ない。
- 一つ分の大きさが違うから、 $1/2+1/3=2/5$  としてはいけない。

5 確かめ問題に取り組む。

$3/8+1/4$  の計算をして、説明しよう。

- 説明を記しながら問題に取り組み、交流する。
- 分母の最小公倍数は、8 だから、 $1/4$  だけ分母と分子を 2 倍すればできる。
- この問題でも通分して、一つ分の大きさをそろえれば計算することができた。

6 全体で明らかになったことを整理し、まとめる。

分母の異なる分数のたし算は、通分して、ひとつ分の大きさをそろえれば計算することができる。

- 確かめ問題の後、ペア問題に取り組み、お互いに説明しあう。
- ペア問題ができた児童は、練習問題に取り組む。
- 練習問題の答え合わせを終えた児童は、自作問題に取り組む。

7 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。

- 和が 1 より大きくなる問題もある。

例)  $5/7+1/2=10/14+7/14=17/14=1 \frac{3}{14}$

- どの問題でも、通分をして一つ分の大きさをそろえれば計算できる。

- 立式できている児童には、4年生で学習した加法との違いに注目させ、課題意識をもたせるとともに、これまでに学習したことから解決方法に対する見通しがもてるようにする。

- 分母同士を計算して和を  $2/5$  としてしまう間違いを教師が示すことで、本時の課題化へとつなげる。

- 通分し、計算式を書くだけで満足している児童には、説明することを意識させ、数直線や面積図をもとに、「 $1/6$  の三つ分と  $1/6$  の二つ分にだから、合わせて  $1/6$  の五つ分になる」と考えられるようにする。

- 「一つ分の大きさをそろえる」にするために、通分するということをおさえる。

- 練習問題の見届けをする。

- 自作問題の中で、和が帯分数・仮分数になるものがあれば、紹介する。

- 式が立てられない児童には、4年生で学習した同分母分数の加法に振り返らせ、分数でも整数と同じようにたし算ができたことを想起させ、立式できるようにする。

- 自立解決の見通しがもてない児童には、同分母の分数であれば、「一つ分の大きさ（単位分数）のいくつ分」で考えるから分子同士をたせばよいことをもとにして、通分して分母をそろえれば計算できそうだという見通しがもてるようにする。

- 通分でつまずいている児童には、前時の学習を振り返り、分母の最小公倍数を求められるように支援する。

- ノートをもとに挙手ができるように促す。

- ペアで話す際に、説明につまずく児童の支援をする。

- 練習問題の見届けをする。

- 問題文に「合わせて」という言葉が入っているということだけでなく、既習事項である同分母分数の加法をもとに、「分数でもたし算が使える」ことや「一つ分の大きさ（単位分数のいくつ分）」で考えたことを立式の根拠にできている児童を価値付ける。

- 数直線や面積図を使う場合には、1目盛を等間隔でかくことに注意し、分母が違っていると、「一つ分の大きさ（単位分数）のいくつ分」で考えることができないということを視覚的に捉え、説明で生かせるようにする。

- 説明の中に「一つ分の大きさ（単位分数）のいくつ分」という考えが位置付くよう、机間指導で助言する。

- 確かめ問題を自分で説明できるようにするために、必要に応じて、本時のまとめをもとにした説明のモデルをヒントカードとして示す

- 机間指導によって、仲間の反応を確かめながら丁寧に説明できているペアを価値付ける。

- 自作問題に取り組む児童に対しては、和の大きさに注目させ、帯分数や仮分数になるものは、本時からの発展として次時につながることに気付かせる。

〈技能〉  
分母が異なる分数の加法のしかたを考え、説明することができる。  
分母が異なる分数の加法の計算ができる。（ノート・発言・練習問題）